

ワオ高等学校 2023(令和5)年度 自己点検・評価報告書

① 学校の概要

ワオ高等学校は、2020（令和2）年12月に学校法人ワオ未来学園を創立し、2021（令和3）年4月にオンラインハイスクールとして岡山県岡山市に開校した広域通信制高校である。「豊かな教養と正しい心をもって自らの幸福を求め、社会に貢献する人を育てる」ことを使命とし、従来の偏差値偏重から脱却した新たな価値観を生む教育を目指している。この使命に基づき、学校設置科目の「教養探究」で哲学・科学・経済を必修とし、対話を中心とした新しい学びを展開している。

2023（令和5）年度は開校からようやく3学年がそろい、初の卒業生を輩出した。学習塾運営のワオ・コーポレーションを母体としていることから、大学や専門学校など進学希望者が多く、高校長期留学や留学コースの学びの成果をもって海外大学へと進学した生徒もいた。学校運営としては、外部講師や大学、不登校支援団体などとの連携を深めることで学びコンテンツの充実を図り、全国で実施する校外研修の回数を増やすなど、生徒が活発に活動できる環境を整備。生徒一人ひとりが充実した高校生活を送れるように努めている。

② 2023（令和5）年度の概要

バーチャルキャンパスを日々の活動の核とし、オンラインでの朝礼、ホームルーム、授業などを充実させることで、生徒たちが自然にバーチャルキャンパス集う仕組みづくりに取り組んだ。初の卒業生輩出に向けて進路指導にも力を入れた。オンライン自習室の開設や文化祭の実施など、ワオ高校を外部発信していく取り組みも広げ、生徒の活動成果を積極的に発信する場を整えた。

（1）オンライン自習室 WAO25 を開設

ワオ高校のバーチャルキャンパスの一部を中高生向けに開放し、自由に使ってもらえるオンライン自習室を開設した。一人で勉強したり、グループで教え合ったりすることで、勉強への意欲を高めてもらう場所とすることが狙いで、「学び合い」を大切にしているワオ高校の理念を伝える場にもなっている。

（2）さとのば大学のラーニング・ジャーニーに参加

ワオ高校と連携協定を結んだ「さとのば大学」が提供するプログラム「ラーニング・ジャーニー」に生徒や教職員が参加。日本全国のさまざまな場所に出向き、その土地の地域課題を探り、現地の人々との交流を通じて学びを深めた。

（3）岡山本校をメイン舞台に「起業家的文化祭」を開催

2022年度にオンライン文化祭を初開催したことに続き、2023年度は岡山本校をメイン舞台に、11月に「起業家的文化祭」を開催した。起業コースの生徒が中心となって主催し、文化祭ながら「利益」を意識したイベント内容を企画。本校周辺の学校や地域住民へのPR活動を行って集客し、ブース出展をし

た生徒同士が売り上げを競い合うユニークな文化祭となった。

(4) 「シンギュラリティバトルクエスト 2023」で全国 2 位 連続入賞を果たす

データサイエンスを学んできた生徒が「全国高校 AI アスリート選手権大会シンギュラリティバトルクエスト 2023」に 3 年連続で出場。X クエスト部門で全国 2 位に入り、連続上位入賞を果たした。プログラムを学び生徒たちが着実にレベルアップしていることが証明される結果となった。

(5) 初の卒業生を輩出 海外大学進学も初

自分の「好き」を重視し、偏差値ではなくやりたいことや自分の未来を視野に進路を選んだ生徒が多かった。特に大学・専門学校進学を選択した人が 63.2%と、他の通信制高校に比べ高いのが特徴となっている。自由な時間を存分に使って受験勉強に集中し、高い目標を達成できた生徒もいる。

また、留学コースでは長期高校留学をきっかけに広い世界を見たいと海外大学進学を目指した生徒のほか、海外大学進学に向けて英語力を高める学習に力を注いだ生徒が、それぞれ希望するアメリカの 4 年制大学へと進学した。

(6) 岡山県倉敷市で卒業式を初開催

開校以来初となる卒業式を、3 月に岡山県倉敷市で開催した。本校がある岡山県で卒業生や保護者に思い出をつくってもらおうと、岡山を代表する文化都市である倉敷市で開催し、式典だけでなく祝賀会も同時開催して、生徒・保護者・教職員が食事をしながら 3 年間を振り返る場となった。

③ 自己点検・評価の総評と課題

本校は、2021 年度の開校以降、学校関係諸法令を遵守して学校運営を行うべく、教員配置や制度設計、教育ツールの整備、オンライン環境の整備などに取り組んできた。

開校 3 年目を迎えた 2023 年度は、3 学年そろっての学校運営となることで、これまで課題となっている学習システムなどを適宜改良しながら、生徒がスムーズに自学自習ができるシステムを整え、教職員がバーチャルキャンパスで効果的に学習指導が行える環境づくりに努めた。

生徒が 3 学年そろったことで、本校が力を入れている対話型の学習をより充実させることができているが、オンラインでの生徒指導や学習相談ではまだ課題もあり、教職員の指導力アップが望まれている。教職員相互の意見交換によるスキルアップや外部研修の積極的な活用、生徒・保護者からの評価を積極的に受け止め、さらなる学習環境の向上を図っていく。

(1) 評価項目と基準の設定について

高等学校通信教育の質の確保・向上のためのガイドライン等を参考に、評価項目と基準を設定している。

(2) 評価について

A～C の 3 段階で評価する。

A：評価基準を十分に満たしている

B：評価基準を満たしているがより改善の余地がある

C：評価基準を満たしていない

※自己評価の各項目と評価基準に対する詳しい評価結果は、別表を参照。

④ 学校関係者評価

学校関係者評価として、生徒、保護者に対しアンケートを実施している。開校から 3 年でようやく 3 学年がそろい、学習システムや学校環境を改善しながら学校運営をしていく中で、9 割を超す生徒・保護者が「とても満足」「少し満足」と回答した。中でも、教養探究などワオ高校独自の学びについては、生徒・保護者共に 9 割超が「将来に役立つ」と回答するなど、引き続き高い期待が寄せられていることが分かる。

一方で、オンライン授業や添削指導の仕組みなど学習システムについては改善すべき課題もあり、引き続き改善を図っていく。

	生徒	保護者
学校への満足度	90.5%	93.1%
ワオ高の学びは将来に役立つと思う	96.9%	96.5%

生徒・保護者アンケートの詳しい結果は別表を参照。